



社会福祉法人つるかわ学園  
つるかわ学園を支える会  
☎195-0051  
東京都町田市真光寺町  
186番地  
T E L (042) 735-2220  
F A X (042) 736-6374  
HP:tsurukawa-gakuen.com

す。不思議です。

この仕事をしながら、私はよくストレスに強いと言われます。そう見えるのでしょうか。しかし、実はその反対で微妙にして繊細な神経の持ち主で具合が悪いと、すぐケリしてしまつたのです。結構、敏感に反応していて、何事もなかった顔をしていません。ストレスは、「体」と「心」と「行動」にあらわれますが、多くの場合、まず体のサインから出て来ます。

皆さまお元気にお過ごしですか。またお正月がやってきました。昔だったら、新年あけましておめでとーございませう。一斉に一歳年をとりました。雰囲気的にはそっちの方が私は好きなのです。みんなひとつずつ年をとり大人になったのだ。と、実感として若い頃は一緒に祝ったものでした。今は「満〇〇歳ですから、それぞれが「誕生日」がありますね。〇歳〇か月。それが正しいのです。若いうちはいいいのですが、年を取りますと、もうそんな年なの？てな調子になりますと、良いのか悪いのか、申し訳ない気持ちになったり、そうすかお元気ですね、でケリがつきます。

常識的に言いますと、ストレスの影響が小さいうちに意識的に体をやわらかくほくしておくことが大切なのです。私たちの体は常にきめ細かく外界に反応しながら、微調整を重ねて日一日を過ごしています。ストレスや不安があると動悸がしたり、冷や汗が出たり、血圧や血糖値が不安定にするのも微調整を行っているのです。しかし、その状態が長引くと、調整力も弱まり、心身の病気の芽が育ち始めるのです。私たちのような仕事をしていますと、心は右往左往しています。

上に脆い時もあります。時には、折れもするし、凹みもします。でも大丈夫。私たちにはそれらをカバーして、なお前向きに生きていける本能がそなわっているのです。動物本能とは、いざという時に五感のアンテナを目いっぱい広げて身を守り、生きのびる生き物の知恵と底力があります。朝、排尿後に「ああ気持ちいい」と思えば大丈夫。排泄は生きていく証です。また、風、光、雲などの自然界の表情を常に五感で敏感に受け止めている人ほど身を守る底力があるものです。

日ごろから五感を大切に育ててみましょう。そよ風に吹かれて、気持ちよく揺らぐ柳のように、軽やかでしなやかな心でいられば、優しい笑顔で、一日一日を過ごすことができるのです。

新年にあたり「まず、力まずに体の力を抜きましよう」ストレスがかかっている時の体は、血管もリンパ管も筋肉も知らず知らず、ぎゅっつと締まって硬くなっています。人間の体はすべての機能が連携して生命活動を行っていますから、血管だけが、リンパ管や筋肉だけが硬くなることはなく、みんな一緒に硬くなったり、老化したりします。筋肉がこって硬くなっている人は血管も硬いと言われるゆえんです。

「体をほくすと、心が軽くなります。」そよ風のように、今を生きるために、いくつになっても、いいえ、年を重ねるほど、今があるがままに、おらかな気持ちで生きているのです。

私は施設長を長い年月やり、そして今、理事長をしています。障害者福祉の場において、さらなる深い奥行のある道を歩き、つかめない正体に戸惑う体験を繰り返しています。

昨年、ノーベル文学賞にホブ・ディランが受賞しました。有名な「風に吹かれて」の冒頭。「どれだけの道を歩けば、マンと呼ばれるのか」「一人前の男と呼ばれるために、どのような人生修行が必要なのか。」

ノーベル賞って視野が広いのですね。長いこと、福祉の道を歩き、そして「風に吹かれて」の感動にまだまだ、辿り着かない道を歩いています。新年号の原稿がストレスに紙を埋めてしまいました。私の人生は若くして施設長になり、それが諸悪の根源となり、ストレスに埋まり、さい悩まされた人生だったと思うのです。マインドワンダリンと言つて心を蝕むストレスがあります。頑張り込むストレス、我慢するストレス、落ち込むストレス。悪いことばかりか、良いこともストレス発生の原因ともなります。キラーストレスを抱えず、そうならないように、この一年をお互いに「体」と「心」のバランスをうまくとって生きましょう。

## 新年のご挨拶

つるかわ学園施設長 丸山 文弘

皆様、明けましておめでとつござ  
います。本年もよろしくお願いた  
します。

さて、平成二十八年を振り返る  
と、四月に二回の震度七を記録した  
「熊本地震」がありました。多くの  
方々が命を落とし、熊本のシンボル  
ともいえる熊本城が甚大な被害を受  
け、その被災した姿が、繰り返しテ  
レビに映し出されました。七月に  
は、神奈川県にある障害者支援施設  
「津久井やまゆり園」の元職員によ  
り、十九人も利用者の尊い命が奪  
われるという事件がありました。八  
月になると、台風が直接北海道に上  
陸するという、信じられないような  
こともありました。この台風によ  
り、ジャガイモや玉葱といった野菜  
が大きな被害を受けています。九月  
は一か月間殆ど晴れず、十月になる  
と、鳥取県を震度六弱の地震が襲  
い、また被災者が出てしまいました  
た。地震国日本とはいえ、やりきれ  
ない気持ちになってしまいます。

思い返すと暗い話題ばかりの昨年  
だったようですが、そんな中で、リ

オデジヤネイロ五輪での日本選手の  
活躍が、一服の清涼剤だったような  
気がします。本年が、明るい話題に  
溢れかえるような年になることを  
願ってやみません。

さて、つるかわ学園では昨年、か  
ねてからの懸案となっていた、外壁  
の防水塗装工事を中心とした大規模  
修繕工事を実施することができまし  
た。全体で九千数百万円の工事費用  
でしたが、国から大規模修繕のため  
の補助金を頂くことにより、何とか  
実現することができほっと胸をなで  
おろしているところです。これも皆  
様のお力添えのためものです。あり  
がとうございます。大規模修繕が終  
わり、今度は施設の建て替えとい  
うことになるのでしょうか。終わっ  
たからと言って、喜んでばかりはい  
られないようです。

利用者の方々が安全で、安心でき  
る施設を目指し、本年も職員が一丸  
となり頑張りたいと思います。ご指  
導ご鞭撻のほど、よろしくお願いた  
します。

## 本年もよろしくお願いたします。

町田通勤寮長 三階 広明

民間移譲による、つるかわ学園  
「町田通勤寮」の運営が始まり九ヶ  
月が経ちました。年度当初には移譲  
に関する事務処理もあり慌ただしい  
時期もありましたが、どうにか無事  
に移行できたと思っています。

民間移譲により一番大きな課題と  
なっているのはやはり「経営」とい  
う事になります。東京都の補助金は  
ありますが、利用者の数を確保して  
いないと収入が減額になってしま  
う現在の国制度（日額現員払いとい  
います。）では、経営的に厳しい現実  
に直面します。「通過型」施設であ  
る通勤寮は「退寮と入寮」の時期に  
どうしてもタイムラグが生まれ、厳  
しい状況になりがちです。「通勤寮  
の機能は必要だ」という声に答え、  
潜在的ニーズを掘起し利用者確保  
していく取組を進めていきたいと思  
います。

「標準利用期間2年」というサイ  
クルに対応した支援の充実にもさら  
に努めたいと思います。

これまでと比較すると利用者の状  
況は「複雑化、多様化」してきてい

ると言われています。確かに今まで  
以上に配慮が求められるケースが増  
えています。2年を超えて支援の継  
続が必要なケースがあることも現実  
です。

「就労を基礎とした自立した地域  
生活を指す」という本来の役割と  
機能は維持しつつ、利用者一人ひと  
りの思い（意思）を実現するため  
に、「支援と訓練」、「自立と自  
律」、「権利と責任」等について丁  
寧に伝えていく、信頼関係に基づい  
た支援を引き続き目指してまいりま  
す。

また、障害者福祉制度が大きく変  
わってくる中で、「制度の隙間」に  
よって福祉サービスを受けられない  
ケースの「最後のセーフティネッ  
ト」としての役割も期待されていま  
す。寄せられる「社会的な要請」に  
応えていく事の出来る通勤寮とし  
て、新たな取組についても検討して  
いきたいと思えます。

職員一同、努力してまいりますの  
で、よろしくお願いたします。

### 新年あいさつ

地域生活援助センターフクシア  
センター長

市川

嘉\*



新年あけましておめでとござい  
ます。本年もよろしくお願い致しま  
す。

地域生活援助センターフクシア、  
は町田通勤寮卒業生の入所希望され  
た方を毎年受け入れ、14ユニット利  
用者71名の大所帯となっておりま  
す。また、3月には3名人所が予定  
され74名となります。

これからの地域生活援助センター  
「フクシア」としては、利用者を受  
入れるばかりではなく、地域での単  
身生活に向けての支援が必要と考え  
ています。そのためには、単にア  
パート生活への移行だけではなく、  
サテライト型住居の活用も視野に入  
れています。

しかしながら、単身生活といって  
ご本人がやる気を出しても、お父さ  
ん、お母さんが中々認めてくれない  
といった事がしばしば出てきます。  
その理由は「グループホームにいれ  
ば支援はしてくれるし見守ってくれ  
ているので安心。仮に地域生活を

送って失敗したときに戻れる場所が  
中々見つけれない。」との親心と  
してもっともなご意見がありまし  
た。もしかしたらこのお父さん、お  
母さんへの説得が一番大きなハー  
ドルと言えるかもしれません。

フクシアのグループホームで生活  
されている利用者さんはかなり優秀  
な方が多くいらっしゃいます。単身  
生活も決して不可能ではなく、ご本  
人の強い意志及び周囲の理解があれ  
ば地域生活は十分可能なのです。サ  
テライト型住居といった制度を上手  
に活用して、地域生活実現に向かっ  
てもらいたいと思います。

新しい年を迎え、ご本人、ご家族  
の方々にもサテライト型住居の制度  
の利点を十分に説明していくつもり  
でおります。地域単身生活を希望さ  
れている利用者さんの希望実現のた  
めの応援をしていく所存です。



### 新年のご挨拶

つるかわ学園相談支援センター  
管理者

芹澤 政人\*



新年あけましておめでとござい  
ます。

今年の九月二十三日付で就任いた  
しました芹澤です。前任者から業務  
を引き継ぎまして、また三ヶ月を過  
ぎたところです。つるかわ学園の地  
域支援も兼務させていただいており  
ますが、相談支援を通じまして、改  
めて「地域との繋がり」「ひとり一  
人の生活づくり」の重要性を実感し  
ております。相談支援事業の運営に  
つきましては、各関係機関、地域の  
皆様からご理解とご協力をいただき  
心より感謝申し上げます。

障害のある方が、地域でその人ら  
しい生活が送れるように必要な取り  
組みとは何かを模索しながら進めて  
いますが、地域ネットワークの構築  
がなくては目標の達成はできません。  
町田市では相談支援事業所連絡  
会を開催し、その場では、各事業  
者、関係機関との情報・連携を密に  
しており、計画促進及び計画の質向  
上を目指すことが求められていると  
認識しているところです。

現在は、法人内の利用者の計画相  
談が主となっておりますが、利用者の  
ライフステージはさまざまです。連  
絡会もそうですが、各関係機関と情  
報の共有をシステム化することで、  
一貫性・継続性のある支援を提供す  
ることができ、相談支援において求  
められる役割と考えています。  
何よりも前述した「地域でのその  
人らしい生活」の実現のためには、

本人主体の相談支援でなければ成立  
しません。サービス等利用計画作成  
には、①利用者のニーズに沿った  
サービス等利用計画になっている  
か。②課題が中長期の観点できちん  
と整理されているか。③支援する関  
係機関の機能と役割分担が整理され  
ているか。④社会資源において、  
フォーマル、インフォーマルのサー  
ビスが整理されているか。⑤生活の  
変化を見逃さないようにモニタリン  
グの役割が共有できているか。以上  
の視点が必要と実感しています。こ  
れらの役割を担うことで支援を必要  
としている利用者に対して過不足の  
ないサービスが提供することができ  
るのだと思います。

サービス等利用計画は、各関係機  
関とのコミュニケーションツールと  
なり、各事業所のサービス管理責任  
者が作成する個別支援計画にも関係  
してきますので、総合的なチームア  
プローチを展開していくことが重要  
であると考えます。

新年の抱負としましては、ご本人  
のニーズを丁寧に確認し、利用者の方  
々が持っている力を最大限に引き  
出す「エンパワメント支援」を心が  
けて、夢や希望のある地域生活をサ  
ポートできるように取り組んでいき  
たいと思います。また、地域で必要  
とされる相談支援事業所になれるよ  
うに邁進していきたいと思いま  
す。本年もよろしくお願いいたしま  
す。

# あけましておめでとつございます。

町田市障がい者就労・生活支援センター りんく  
つるかわ学園職業準備支援センター 管理者

滝島 弘之

あけましておめでとつございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

近年の就労支援機関（就労移行支援事業など）の増加や特別支援学校におけるキャリア教育の推進などにより、地域の関係機関との就労支援連携がとて重要になってきています。

特別支援学校との連携については、毎年30名近くの生徒さんが、卒業後の職場定着支援を希望して町田市障がい者就労・生活支援センターりんくへ利用登録します。

「学校生活から社会生活への移行」という非常に大切な時期であるため、在学中からの積極的な連携・情報交換の重要性を強く感じています。

連携の前提として特別支援学校の先生との信頼関係の構築（「顔の見える関係」をつくる）を最優先に行う必要があると感じております。

また、特別支援学校と就労・生活

支援センターでは「どのような場面でも何を連携していくのか」ということを今まで以上に意識して明確にすることが重要であると感じております。

「連携」を形式的なものにするのではなく、私たち就労・生活支援センターとしての「役割」はどのようなべきか、日頃の実践を通じて明確にしていきたいと考えております。

町田市障がい者就労・生活支援センターりんくが開所して今年で9年目（平成21年4月開所）を迎えますが、これからも「障がいのある人の職業生活を支える拠点」として、特別支援学校をはじめとする関係機関との連携や地域における就労支援のしくみづくりに積極的に取り組んでいきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いたします。



つるかわ学園職業準備支援センターが開所して今年で6年目を迎えます。

現在までに利用していただいた方の多くが企業就労を開始しており、就職後の職場定着支援のニーズが高まっています。

職場定着支援の取り組みの中で感じることは、障がいのある人が就労を継続していくためには、「本人の力」だけではなく、「職場の支え」や「家庭の支え」、「地域の支え」、「雇用支援制度」などが大切であるということです。

その中でも特に大切であると感じるものは「職場の支え」です。障がいのある人で適応行動が苦手という人はいますが、適応行動というものを環境を改善することによって十分に改善されると思えます。

職場の環境は大別して、物理的環境と人的環境（人の環境）の二つから成り立っていますが、障がいのある人の場合は人的環境（人の環境）が重要であると思えます。

特に重要となるのが、「直接指導

にあたる人の理解（障がいに対する正しい理解や職務指導上必要な知識・技術）」であると思えます。また、障がいのある人の感情面を平穏に保つための十分な配慮ができるかどうかも職場指導者の必要な要件になると思えます。

障がいのある人が、仕事に従事し上げる生産量は、本人の能力だけではなく、指導者の「作業環境設定」と、作業を進めるための「作業手順の設定」、「感情を平穏に保つ対応」などによって大きく左右されます。したがって、この「作業環境設定」と、「作業手順の設定」、「感情を平穏に保つ対応」などが適切にできるかどうか、職場指導者にとって最も重要な要件になってくると思えます。

今年も職場定着のための企業支援（障がい者雇用に関連する必要な情報提供、情報交換など）を積極的に実施し、障がいのある人の就労環境の整備を図っていきたくと考えております。



「つるかわ学園ふれあいまつり」と名称を変更してから、今回で三回目のふれあいまつりを迎えることができました。

今年度は園舎の大規模修繕等の兼ね合いから、雨天の際は中止、また、模擬店などの販売量も、雨天時に対応できるよう、準備数を縮小したの対応となりました。

当日は天気にも恵まれ、模擬店・ステージ等、ほぼ予定通りに実施する事が出来ました。開場前から来場者の方が列をつくって待ってくださり、その人数は七十名を数えました。

数年ぶりの晴天の中、園庭でのステージ・模擬店等に並ぶお客様。規模は縮小しましたが、地域の方々との「ふれあい」が色々なところで見る事ができました。

また、今年度も地域の福祉事業所等に場所の提供をし、模擬店やそれぞれの事業所で作られた製品等の販

地域生活支援主任 近藤 洋

売をして頂きました。各団体の方が販売して頂いた美しい花や豆腐製品、利用者の方々が作成した素晴らしい縫製品、焼き鳥、甘酒等はどれも来場者の方が喜ばれていました。

この行事は前年度より引き続き、つるかわ学園の利用者・職員・ご家族等と有意義に交流を図り、地域とより結び合えるような企画運営を目指しています。

つるかわ学園の理念、「地域と共に暮らし地域と共に生き」ことを愛の拠点にします」をいつまでも大切に第四回・五回と、このふれあいまつりがより充実した内容となるように取り組んでいきたいと思えます。

最後に、当日お手伝いいただいたボランティアの方、地域や各関係機関の方など、多くの方の誠意とご理解、ご協力いただきましたことにより感謝申し上げます。

また、これからもよろしくお願ひ申し上げます。



# つるかわ学園 防犯講習会

つるかわ学園地域支援部長

芹澤 政人



昨年の七月、神奈川県相模原市の障害者支援施設において、多数の入所者が殺傷されるという痛ましい事件が発生しました。

当施設におきまして、施設入所者の安全の確保に努めるため、町田警察署（生活安全課防犯係3名と地域の駐在所の方四名来園）の協力を得て、十月二十七日（木）に防犯講習会を開催いたしました。

つるかわ学園の職員四十一名が参加し、福祉施設における防犯や不審者への対応についての指導を受け「守る」ことの意識を高めることができました。その中でも、「さすまた」の指導をしていただき、実際に使用しての講習も行いました。さすまた以外にも身近なもの（長椅子や、消火器も）を活用することが、不審者への対応では有効であるとの話がありました。

講習会の講話では、不審者への対応として、周囲に伝えることやできる限り複数人で対応すること。夜間

時は、携帯電話を持って巡回する。建造物侵入の場合は、火災通報のボタンを押す等して知らせることが重要であるとの指導がありました。

この防犯講習会を通じて、改めて施設の管理、防犯体制、夜間時等の対応を考え、見つめなおすことが出来ました。今後も、適切に構築できるように徹底していきたいと考えております。



## つるかわ学園 ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!  
HP: [tsurukawa-gakuen.com](http://tsurukawa-gakuen.com)



## つるかわ学園を 支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあって、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあっても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

### 会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千元ですが、ひとりで何回か入っていたり、こどもを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

### 入会方法

入会して下さる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一〇一七一一九四〇二九

加入者

社会福祉法人 つるかわ学園